

3. 前立腺肥大症患者のOAB(過活動膀胱)症状に対する牛車腎気丸の有用性

日本大学医学部 泌尿器科学系 泌尿器科学分野
○一瀬 岳人、咲間 隆裕、長根 裕介、佐藤 克彦
持田 淳一、山口 健哉、平野 大作、高橋 悟

【目的】抗コリン薬が不応あるいは不適とされる前立腺肥大症の患者で、 $\alpha 1$ 遮断薬治療にてOAB症状が改善しない患者に対する牛車腎気丸の効果を検討した。

【対象と方法】2008年3月から2009年4月までに当院を受診した $\alpha 1$ 遮断薬（種類は問わない）を投与している患者で、抗コリン薬が不応あるいは不適と判断されたOAB症状を有する前立腺肥大症の患者を対象に、牛車腎気丸を8週間経口投与し評価を行った。研究期間中は $\alpha 1$ 遮断薬以外の排尿障害に影響を及ぼすと考えられる薬剤の併用は禁止とした。有効性評価として、①排尿日誌による排尿回数、尿意切迫感回数、尿失禁回数、②IPSSによる排尿スコア、③OABSSによるOAB症状の程度、④健康調査による健康スコア、⑤ウロフローメトリー、残尿量について観察を行った。

【結果】研究期間中に5例が登録された。患者の年齢は平均 75.8 ± 7.0 歳であった。合併症は高血圧症の2例であった。有効性については、IPSSのうち頻尿と尿意切迫感に改善が認められた。OABSSスコアの合計は9.6点→6.2点、残尿量は平均 $114.6 \rightarrow 27.2$ mlとそれぞれ改善がみられた。安全性については、血液生化学検査値も含めて副作用は認められなかった。

【考察】牛車腎気丸には① κ -オピオイド受容体を介した膀胱反射の抑制、②C線維活動の抑制による異常な膀胱収縮頻度の抑制作用が認められていることから、今回、前立腺肥大症患者のOAB症状に対する牛車腎気丸の効果を検討した。結果、牛車腎気丸は抗コリン薬の使用が躊躇われるOABに対して有用であることが示唆された。

4. BNP高値の夜間多尿に対する牛車腎気丸とラシックスの効果

京都大学¹⁾、倉敷中央病院²⁾
京都市立病院³⁾、京都医療センター⁴⁾
○吉村 耕治¹⁾、清水 洋祐¹⁾、宗田 武²⁾、上田 朋宏³⁾
増井 仁彦⁴⁾、奥野 博⁴⁾、小川 修¹⁾

【目的】血漿BNPが高値で夜間多尿が原因の夜間頻尿に対する薬物治療として、牛車腎気丸とフロセミドの効果、安全性を検討した。

【対象と方法】対象は1)夜間排尿回数が3回以上、2)（夜間産生尿量/24時間産生尿量）/（就床時間/24時間）が1以上、3)血漿BNP値が20pg/ml以上、を満たす24例の成人患者。牛車腎気丸エキス製剤（G）7.5g/分3回/日と、フロセミド（F）20mg 昼後/日投与を、1ヶ月ずつ投与。G→Fの投与をA群、F→Gの投与をB群としてランダムに群分けし、クロスオーバー試験とした。投与前後に各種質問票、排尿日誌、血圧測定、血漿BNP測定、体内水分測定などを施行し、比較検討した。統計学的検討はWilcoxonの符号付順位検定を用いた。

【結果】対象者は平均73.8歳（54-85）、男性19名・女性5名であり、A群14名・B群10名であった。1)I-PSS夜間頻尿スコアは、G（ $p=0.03$ ）、F（ $p<0.01$ ）ともに有意に改善、2)I-PSSトータルスコアはGで変化なく（ $p=0.14$ ）、Fで有意に改善（ $p=0.01$ ）、3)IPSS QOLスコアはG（ $p<0.01$ ）、F（ $p<0.01$ ）ともに改善、4)PSQIはGで変化なく、Fでは睡眠の質（ $p=0.02$ ）とトータルスコア（ $p=0.02$ ）で改善、5)F、Gとも体内水分量に有意な変化なし、6)Fで収縮期血圧が有意に下降（ $p<0.01$ ）、7)血清BNP値はFでGより有意に低値（ $p=0.03$ ）、8)排尿日誌上、Fにて各種パラメータの有意な改善を認め、GではFの中間程度の効果を示した。

【結論】フロセミドは夜間多尿に対する客観的データを有意に改善し、牛車腎気丸はフロセミドほどではないものの軽度改善させ、QOL改善への寄与が示唆された。